

米海兵隊オスプレイ等の定期機体整備に関する北関東防衛局説明会議録

(三輪局次長) ※別添資料に基づき説明

- ・米海兵隊のオスプレイについては、沖縄の普天間に配備されている 24 機のことではありますが、これを、米軍が、平成 29 年度頃から定期機体整備を開始する予定であり、この 10 月には、米軍によって、入札に係る公示が行われ、企業から提案を募る見通しであります。定期機体整備については、通常の整備ではなく、例えば、車で言えば、車検にあたるようなもので、5～6 年に一度、整備工場に搬入して、2、3 ヶ月程度の期間をかけて、機体を分解して、内部の点検や必要な部品の交換などオーバーホールを実施し、機体の安全性を確認し試験飛行する、というような整備内容であります。米海兵隊のオスプレイが 24 機であることを考慮しますと、年間に 5 機程度整備を実施する予定であり、飛来する計算となります。
- ・陸自ティルト・ローター機（垂直離着陸機）については、現在、機種を選定中であり、応札しているのはオスプレイ 1 種ではありますが、年内には機種を選定する予定であります。
- ・中期防衛力整備計画（平成 26～30 年度）により、平成 27 年度の予算要求を行っておりまして、発注してから機体が納入されるのが平成 30 年度末の予定であり、それから 5 年後の平成 36 年度に定期機体整備を開始する予定であります。
- ・飛来ルートは、契約の締結後に決定することになりますが、着陸、離陸の際には、同駐屯地に、現在定められている場周経路（着陸する航空機の流れを整えるために、滑走路周辺に設定された飛行経路）があり、基本的にはそのルートを見込んでおります。
- ・国内に日米ティルト・ローター機の共通整備基盤を確立することは、次の 3 つの観点から適切であると考えております。1 点目が、陸自に初めて導入することとなるので、陸自と企業により整備に関する知見を蓄積していくことが、円滑な導入に不可欠であること。2 点目が、日米が共通して整備できる体制を整えることで、例えば、部品がないというような緊急時等において相互運用性の向上が図られること。3 点目が、日米共通の整備基盤による施設、治工具などを共通して活用することが効率的であることです。次に、具体的な対応策についてですが、陸自のティルト・ローター機の整備部隊の中核として、木更津駐屯地の第 1 ヘリコプター野整備隊を見込むことから、木更津駐屯地の格納庫を米海兵隊オスプレイの定期機体整備のために国内企業に使用させ、あわせて、陸自のティルトローター機の定期機体整備も木更津駐屯地で実施するものであります。

- ・ 今般の米軍の整備入札の開始時期にあわせて、防衛省においても公募手続きを実施する予定であります。この公募については、格納庫が国有財産のため、しかるべき手続きをとり、当該格納庫を用いることを前提に、米軍の整備入札に参加する国内企業を募集するものです。
- ・ 次に、なぜ、木更津駐屯地を定期機体整備拠点として選定した理由についてであります。次の4点を総合的に勘案した結果であります。1点目が、ティルト・ローター機の離着陸に必要な滑走路を有していること。2点目が、駐屯地が海に面していること。陸上自衛隊のうち、直接海に面した滑走路を有しているのは木更津駐屯地のみであり、市街地の上空をなるべく飛ばずに、機体の搬入、搬出が可能であること。3点目が、ティルト・ローター機を整備する格納庫として、既存の格納庫を活用できること。4点目が、将来導入される陸自ティルト・ローター機の整備部隊の中核となることを見込む、第1ヘリコプター野整備隊が所在すること。
- ・ 次に、ご懸念のオスプレイの安全性についてであります。政府は、オスプレイの飛行運用に際しては、平成24年のオスプレイの沖縄配備に先立ち、モロッコでMV-22、フロリダでCV-22のあわせて2件の大きな事故がありましたことから、航空安全や事故調査の専門家からなる「分析評価チーム」を立ち上げ、我が国独自の手法によりオスプレイの安全性に係る確認を行いました。その結果、両事故の原因検証等からも、機体の安全性には特段の問題はなく、オスプレイが他の航空機と比べて特に危険と考える根拠を見出すことはできませんでした。また、人的要因による操縦ミス等をどのように防止するかについては、平成24年9月に日米合同委員会において、十分な再発防止策が既に採られていることを確認しております。
- ・ 日本国内における飛行運行についても、日米合同委員会において、地域住民に十分な配慮がなされ、最大限の安全対策が採られることを、両国家間で合意しています。また、飛行の安全性等については、日米合同委員会等の場で今後とも日米間で議論を続けていくことになっております。
- ・ 日本政府としては、これらを総合的に勘案すれば、わが国におけるオスプレイの運用について、その安全性は十分確認されたものと考えております。
- ・ オスプレイについては、オバマ大統領も使っておりますし、今年7月に先の防衛大臣もオスプレイに乗って小笠原村に向かいました。飛行場

のない離島においては、急患の搬送等が課題となっており、小笠原村からは、同機の運用について要請をいただいているところです。

- ・次に、騒音等環境面についてですがオスプレイの騒音は、CH-46（かつて木更津駐屯地に配備されていたV-107（バートル）と同型機）よりも概ね低くなっています。現在、木更津駐屯地に配備されているCH-47J/JAと比較した場合についても、CH-47J/JAがV-107よりも大型・高出力の機体（最大全備重量で約2.3倍、エンジン出力で約2倍）であることを踏まえたと、オスプレイの騒音は、概ね低くなると見込んでいます。また、木更津駐屯地において想定される米軍オスプレイの整備については、年5機から数機程度であることから、飛来による騒音の拡大や影響はほとんどないものと見込んでいます。オスプレイは、自衛隊機と同じ燃料を使用しており、これまで自衛隊機による環境汚染等は報告されていないことから、大気に対する影響等についても考えられません。

説明については以上ですが、同計画へのご理解とご協力をお願いしたい。

（渡辺市長）スケジュールについて確認したい。

（三輪局次長）防衛省としては、米側の公示が出た段階で、木更津駐屯地の格納庫を使用する国内企業を公募する手続きにかけたいが、現時点では未定です。

（渡辺市長）海上ルートは徹底されるのか。

（三輪局次長）風向き等の影響にもよりますが、基本的には定められた場周経路を飛行することになります。

（渡辺市長）早朝、夜間等（休日含む）の飛行はあるのか。

（三輪局次長）基本的にはありません。

（渡辺市長）米軍人の駐留はあるのか。

（三輪局次長）契約管理上の業務や機体の搬出入等のため、数名程度来所すると聞いております。

（渡辺市長）計画の内容は概ね理解しましたが、安全性や騒音等環境への影響など市民が懸念している点もごございますので、今後につきましても、市民の安全安心を最優先に対応してまいりたいと考えております。

（三輪局次長）よろしく願いいたします。